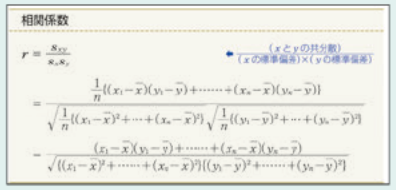
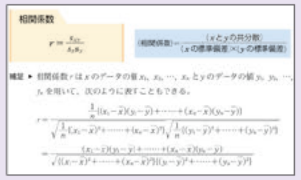
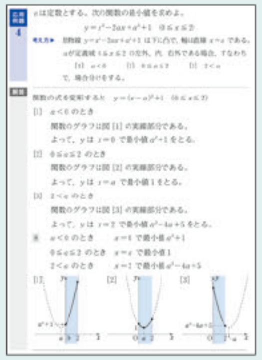
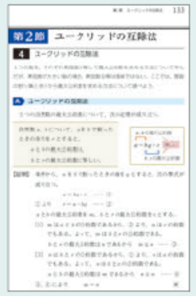
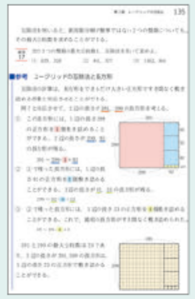
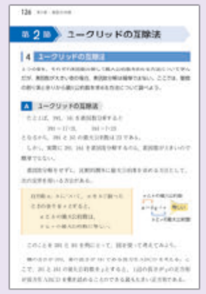
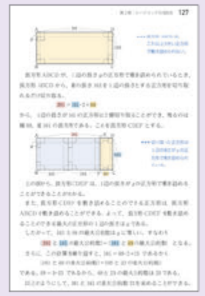
高等学校シリーズと新編シリーズの比較

数学 I の比較

記述・配列の差異		
	高等学校シリーズ	新編シリーズ
1次不等式	中学で学んだ不等号について，記号の種類と意味を表形式で簡単に復習することにより，導入をスムーズにしました。 (p.33)	まず，1次方程式を扱い，「等式の性質」と「不等式の性質」を対比させることで，導入をスムーズにしました。 (p.34，35)
相関係数	3つの式を，すべて公式として扱いました。 (p.180) 	$r=\dfrac{s_{xy}}{s_x s_y}$ のみを公式として扱い，他の2つの式は補足で扱いました。 (p.177) 

問題の差異		
2次関数の最大・最小：定義域の一端が動く	・$y = x^2 - 4x + 1\ (0 \leqq x \leqq a)$ の最小値 (p.87 応用例題3)	・$y = x^2 - 4x + 1\ (0 \leqq x \leqq a)$ の最小値 (P.95 研究)
2次関数の最大・最小：放物線が動く	・$y = x^2 - 2ax + a^2 + 1\ (0 \leqq x \leqq 2)$ の最小値 (p.88 応用例題4) 	・$y = x^2 - 2ax + a^2 + 1\ (0 \leqq x \leqq 2)$ の最小値 (p.99 補充問題5) 5　a は定数とする。関数 $y=x^2-2ax+a^2+1\ (0 \leqq x \leqq 2)$ の最小値を，次の場合について，それぞれ求めよ。 (1)　$a<0$　(2)　$0 \leqq a \leqq 2$　(3)　$2<a$
2次関数の最大・最小：区間が動く	・$y = x^2 - 4x\ (a \leqq x \leqq a + 2)$ (1) 最小値　(2) 最大値　(p.119 章末問題 11) 11　a は定数とする。関数 $y=x^2-4x\ (a \leqq x \leqq a+2)$ について，次の問いに答えよ。 (1)　最小値を求めよ。　(2)　最大値を求めよ。	・$y = x^2 - 4x\ (a \leqq x \leqq a + 2)$ (1) 最小値　(2) 最大値　(p.122 章末問題 10) 10　a は定数とする。関数 $y=x^2-4x\ (a \leqq x \leqq a+2)$ について，次の問いに答えよ。 (1)　次の各場合について，最小値を求めよ。 [1]　$a<0$　[2]　$0 \leqq a \leqq 2$　[3]　$2<a$ (2)　次の各場合について，最大値を求めよ。 [1]　$a<1$　[2]　$a=1$　[3]　$1<a$
三角形の面積	・円に内接する四角形の面積 (p.151 応用例題 3) ・三角形に内接する円の半径 (p.152 応用例題 4)	・円に内接する四角形の面積 (p.156 補充問題 4) ・三角形に内接する円の半径 (p.151 研究)

数学Aの比較

記述・配列の差異		
	高等学校シリーズ	新編シリーズ
円の性質	中学既習事項の「円周角の定理」，「円周角の定理の逆」を改めてあげ，練習で復習できるようにしました。 (p.78)	中学既習事項の「円の弧と弦の性質」，「円周角の定理」，「円周角の定理の逆」を改めてあげ，練習で復習できるようにしました。(p.75，76)
ユークリッドの互除法	割り算の式 $a = br + q$ において，a と b の最大公約数と b と r の最大公約数が等しくなることの証明を扱いました。また，ユークリッドの互除法の長方形の面積を利用した説明を「参考」として扱いました。 (p.133，135)  	割り算の式 $a = br + q$ において，a と b の最大公約数と b と r の最大公約数が等しくなることを，長方形の面積を利用して説明しました。 (p.126，127)  

問題の差異		
組合せ	・男子6人，女子4人から5人を選んで作る組合せの総数 (1) 男子3人，女子2人の組 (2) 女子が少なくとも1人は含まれる組 (p.32 応用例題 7) ・6人を2人ずつの3つの組に分ける分け方の総数 (p.33 応用例題 8) 8人を3人，3人，2人の3つの組に分ける分け方の総数 (p.33 練習 28(3))	・男子6人から3人，女子4人から2人選ぶ組合せの総数 (p.31 例題 7) ・男子7人，女子5人から3人選ぶとき，男子が少なくとも1人は選ばれる組合せの総数 (p.36 補充問題 3(2)) ・6人を2人ずつの3つの組に分ける分け方の総数 (p.32 応用例題 6) ・8人を3人，3人，2人の3つの組に分ける分け方の総数 (p.36 補充問題 4(2))
反復試行	・硬貨の表裏により数直線上を動く点Pが原点に戻る確率 (p.54 応用例題 11)	・硬貨の表裏により数直線上を動く点Pが最初の位置に戻る確率 (p.60 章末問題 12)
方べきの定理，方べきの定理の逆	・円の外部の点Pから円に引いた接線の接点をTとする。Pを通ってこの円と2点A，Bで交わる直線を引くと，PA·PB = PT² が成り立つ。 (p.86 定理 12　方べきの定理 II) ・定理 12 を用いて線分の長さを求める問題 (p.87 練習 23) ・方べきの定理の逆の証明 (p.87 研究)	・円Oの外部の点Pを通る直線が円Oと2点A，Bで交わるとする。Pから円Oに引いた接線の接点をTとすると，PA·PB = PT² が成り立つことの証明 (p.83 練習 21) ・方べきの定理の逆の証明 (p.91 補充問題 3)

「高等学校」「新編」シリーズ比較